



第3編

地域福祉推進の 基本的な考え方

- 1 スローガン
- 2 コンセプト
- 3 計画の重点目標

1 スローガン

みんなで作ろう ともに生きる地域の心を

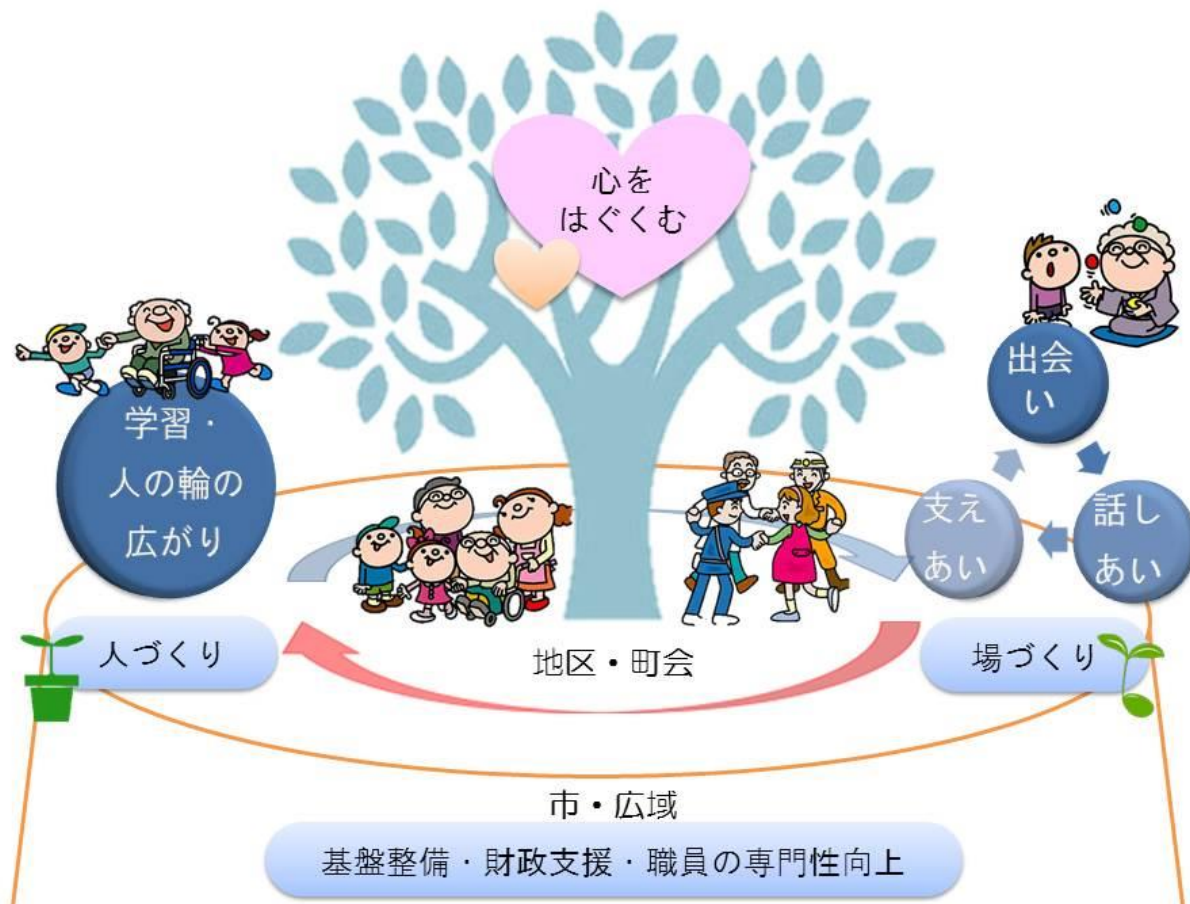
2 コンセプト

「場づくり」＋「人づくり」⇒「心をはぐくむ」

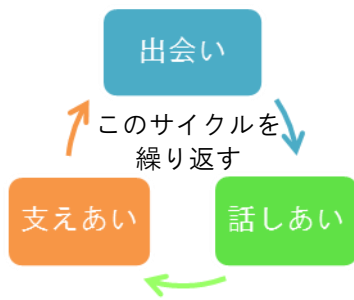
地域で福祉活動を展開する時に大切にしたい視点や姿勢などの基本的な考え方をまとめました。これらを意識的に行っていくことで、住民の主体形成につながります。

また、このコンセプトに基づいて地域福祉推進を図るための推進手法や、推進体制については第4編と第5編で説明します。

地域福祉推進のコンセプト図



場づくり ～三つの「あい」～



◇出会いの場◇

住民同士が出会う機会や、生きづらさを抱える当事者やその家族との出会いの場づくりが、地域福祉推進の第一歩です。

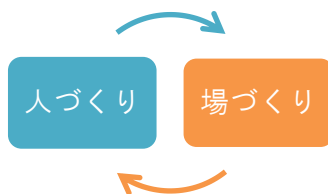
◇話しあいの場◇

出会いを繰り返す中で住民の間に「何か困ったことがあるのではないかと…」という気づき生まれ、話しあいの場へとつながります。話しあいの場では、地域の未来像や、困りごとの共有・共感を図ったり、何かできることがあるのではないかとといったことを話しあいます。住民の機運の高まりを逃さずに話しあいの場づくりを行い、とことん議論を重ねることに時間をかけることが大切です。

◇支えあいの場◇

話しあいをしっかりと重ねることで、課題解決に向けた住民同士の支えあい活動が生まれます。見守り活動や、多くの住民が集うイベントなどの活動を通して、住民同士の新しい出会いの場が創出されたり、次の課題への気づきへとつながります。

人づくり



地域には様々な特技や技能を持つ人や、活動ができる人が多くいますが、一方でボランティアの育成や、地区役員の担い手不足といった人材育成に関する課題は、全地区共通の深刻な課題です。

住民が既に持っている力を引き出し、それを地域福祉推進へと活かしていくためには、「出会い・話しあい・支えあいの場」での取組みの中で「人づくり」を行い、徐々に地域活動に対する住民の理解を広めていくことが必要です。「人づくり」によって、人の輪の広がりや、新しい地域コミュニティ（つながり・グループ）や活動が生まれると、それはまた新しい「場づくり」へとつながります。

心をはぐくむ

「場づくり」、「人づくり」は一方通行のものではなく、サイクルとして繰り返し行うことで、住民の主体性の構築を目指すものです。そして、住民の主体的な地域福祉活動の実践を通じてはじめて「住民の意識向上」が図られます。一人ひとりの心をはぐくまれることにより、地域全体の「福祉力」が向上するとともに、地域に暮らす一人ひとりの行動変容をもたらし、安心して暮らせる地域へとつながります。

3 計画の重点目標

本計画はアクションプランとして、重点的に行う施策を絞り込み、集中的に展開することによって成果を挙げることを目指します。

そこで、各種調査結果をもとに第2期計画の推進施策のうち、取組みが十分でなかったものについて再整理や検討を重ねた結果、次の三つを重点目標として本計画に位置付けます。

ただし、地区によって人口・年齢層・歴史文化等の違いがあり、重点目標や地域課題の優先順位は異なります。よってこの5年間のうちに、全地区一律に本計画の三つの重点目標の展開を求めるものではありません。

(1) 地域の担い手づくり

NPO・企業等の連携、広報活動、担い手意識の向上、学習・講演会
地区ボランティアの拠点づくり、事業参加者の拡大 ほか

(2) 地域の見守り体制づくり・相談窓口の充実

情報の集まる場・つなぐ仕組み、見守りマップづくり、日常時の見守り
町会・隣組等の活動の活性化、個人情報保護等の学習 ほか

(3) 地域で見えづらい課題に気づきあう

差別をめぐる問題、機会（参加）の制限の問題、貧困をめぐる問題、
虐待をめぐる問題、福祉に関する啓発・学習活動 ほか

これらの重点目標を展開するためには、目標を掲げただけでは進まないことを第1期・第2期計画を通して十分学んできました。そこで本計画においては、目標達成に向けた、計画の推進手法を第4編にまとめました。そして、その手法を使って本計画の三つの重点目標を実行する場合には、どのようなプロセスになるのか、という「仮説」を第6編に例示しました。